

平成30年度 第1回熊本博物館協議会議事録

2018年10月31日(水) 14:00～

於博物館 講堂

出席者

【委員】阿部会長、岩崎副会長、日高委員、加島委員、梶尾委員、小林委員、紫垣委員、島津委員、高本委員、田崎委員、富田委員、松井委員、宮本委員

【市】遠藤教育長、津田部長、植木館長、博物館職員

○開会

○教育長挨拶

○議事

議事

(1) 熊本博物館の運営方針について

報告事項

(1) 熊本博物館リニューアルオープンについて

【議事1 熊本博物館の運営方針について】

会 長：それでは会の進行をさせていただきます。

平成30年度第1回協議会の議題に沿って進めます。

まず、熊本博物館の運営について博物館より説明をいただきます。

館 長：本日の議事についてですが、リニューアル後の運営方針について説明させていただきます。

P4 熊本博物館リニューアル後の方針について。運営方針についてどのようなコンセプトで作成したかを説明しております。目的及び理念、取り組みについて観光振興についての寄与についても付加しております。

1 運営方針策定の目的と博物館における基本的考え方

2 学芸活動

3 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策

4 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化

5 運営の検証と評価

《 策定内容の説明 》

会 長：ありがとうございました、ただ今の説明に、ご意見、ご質問はございませんか。

委 員：寄託を受けないという意味は具体的にどのような意味なのか

館 長：一つは現実的な問題として収蔵庫のキャパシティの問題で余裕があまりないこと、また個人的な保存環境の都合での寄託などは考えてほしくないということで、もちろん原則的には個別に話を伺った上で検討を行うものである。

委 員：寄託に関しては、運営方針に記載するのではなく、運用面で対応すればいいのではないか。

会 長：あくまでも原則ということでの表記ですね

委 員：P24の熊本城周辺施設との連携強化についてですが、共同事業など県立美術館としてもやっていきたいと思っている。お出かけお迎え事業について、県立美術館でも出前事業やこども美術館という事業を実施しているが、限られた学芸員人数の中で実施するのは難しい。計画されている事業頻度はどの程度のものなのか。

館 長：お出かけ事業についてはこれまでは休館中であつたため学芸員が出向くことが割合可能ではあつた。しかし、開館後は学芸活動がさらに多岐に亘るため、休館中ほどの活動はできないと思う。そのため学校から博物館にお越しただいて実際の資料をご覧いただき授業に活かしてもらうという方法を重要視している。毎年『館内学習プログラム』というものを作成しており、これを今後活用してもらえれば考えている。まずは学校長の方々に博物館を見てもらい、興味を持ってもらいたいと考えている。幸いなことに博物館にはプラネタリウムが併設しており小学5年生は金峰山宿泊教室の際に博物館に立ち寄るスタイルで運営されている。その機会を利用して、プラネタリウムのみならず館内学習プログラムも活用していただきたい。

委 員：友の会について、学校退職者の方を早めにお声がけするなりして立ち上げに尽力してもらえればどうか。

館 長：友の会は博物館の発展に欠かせない存在であると考えてるが、以前博物館と友の

会事務局での事務分担の課題もあったので、友の会の立ち上げは、今後慎重に協議しながら段階を追って進めて行ければと考える。

委員：友の会は博物館が支援する団体と近いところになるのか。

館長：友の会の会員同士で交流をするという目的もあるだろうが、会員として博物館活動に何らかの支援をいただけるような友の会のあり方を考えている。

委員：支援をする団体としてのイメージを作るのはいいと思う。現在、実際に活動されている団体はどのような会があるのか。

館長：休館の時点で博物館同好会としては解散している。

委員：現在独立しながら活動している団体も含まれるのか。

館長：そのあたりも今後協議しながら検討する。今後、博物館講座も再開することとしており、その中で新たな同好会も立ち上がるかと思うので、その場合の可能性も含めて検討していく。

委員：これらの基本的な考え方を記した運営方針は将来的にどこかに公表されるのか。

館長：この運営方針は承認いただけたら教育委員会に報告し、博物館のホームページにも公表する予定。

委員：公開していくのであれば、展示の運用方法について、「調査研究に基づいた展示更新」という名称を入れた方がより明確になるかと思う。来館者の安全管理については、博物館の設置及び運営上の望ましい基準に関する記述や来館者サービスの中に、観光振興についての寄与についての具体的な記載がないので、他言語表記などについても記載しておくべきかと思う。

委員：来館者の安全確保として漏電があった場合は火災につながる恐れもあるが、これが直接的に来館者の安全確保につながるのか。

館長：来館者への安全確保につながるものと考えている。

委員：熊本県内博物館・美術館・記念館等との連携の部分では、40以上の館と記載

があるがこれは県博協の加盟館のみで、文科省の社会教育調査の数や日博協や民間業者の調査した相当施設を含む数を記載するべきではないか。

委員：連携強化における博物館の中に科学館というものは含まれているのか。そもそも博物館と科学館ってどう違うのか。理工系の科学館などの博物館との連携についても謳った方がよいのでは。

館長：自然系と人文系があり、限定しない書き方をした。博物館の中には広義では科学館も含まれている。

委員：公開承認施設というものについて、いつ頃を目標にしているのか。

館長：最短でも5年程度承認にはかかる。

委員：承認された施設はどれくらいの数があるのか。

事務局：全国的に150館程度で、全国の博物館の中でも1割程度の数ということが一昨年度の公開承認施設会議にて文化庁から報告があった。

委員：認定されれば訪れる人たちも増えるのでは。観光ビジョンの中での寄与について記載があるがどの程度の入館者数を見込んでいるのか。

館長：年間約17万人を見込んでいる。閉館する前は、はやぶさ帰還カプセルの特別公開などでかなりの来館者数があった年もあり、開催する特別展の内容によるところがある。

委員：これは今後の対外的な運営に関する方針であって、8分野の活動については予算の検討・教育普及活動・研究活動・企画展など本当に大変な量の仕事が発生し、実際働かれている学芸員たちにかかる仕事量が多くなると思うが、そのあたりについてどう考えるのか。内部的な運営方針も必要なのではないか。

館長：確かに学芸員の努力に負う部分が大変多いため、学芸員の更なる資質の充実、学会への参加など外部との交流を増やし、なおかつ人的な増員も今後は検討していく必要がある。

委員：リニューアルに関するメディアへの公開は。

館 長：今後の広報活動としては、市電の中吊り等を実施し、報道機関への内覧会も行う予定。

委 員：リニューアルオープン後が勝負になると思う。

館 長：しっかり努力していく。

会 長：最後に本件について承認をいただければと思います。本日いただいた意見を踏まえた修正について、会長に一任をお願いしたい。この方針は承認ということでしょうか

《 一同承認 》

会 長：次に報告事項「熊本博物館リニューアルオープンについて」事務局より説明をお願いします。

《 事務局より説明 》

会 長：ありがとうございました、ただ今の説明に、ご意見、ご質問はございませんか。

館 長：リニューアルオープンについての広報活動について、銀染ビルの懸垂幕、市長会見、市政だより、小中学校への周知、校長会の内覧会、市電 35 両内での中吊り、全国の博物館への発送、シティ FM、こども新聞、報道向けの内覧会も 11 月中旬に開催予定。各メディアからも取材の申し込みも来ている。

会 長：パブリシティをいかにあげていくかも今後の戦略として大事になってくる。

会 長：他に委員の皆様からありませんか。ないようでしたらこれで本日予定されていた議事を終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。それでは進行をお戻しします。

司 会：会長、議事の進行をありがとうございました。最後に部長からお礼を申し上げます。

部 長：(挨拶)

司 会：これもちまして平成 30 年度第 1 回熊本博物館協議会を閉会させていただきます。長時間ありがとうございました。

○閉会

○内覧会